

平成28年度 第1回御殿場市総合教育会議

日時

平成28年7月26日(火) 午前10時

場所

御殿場市役所 第5会議室

出席者

御殿場市長	若林 洋平	教育長	勝又 将雄
教育委員	岩瀬 こずえ	教育委員	勝又 綾子
教育委員	勝又 英和	教育委員	福島 東

陪席者

教育部長	教育総務課長
学校教育課長	
教育総務課課長補佐	教育総務課主任

傍聴者

25人

次第

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 教育長挨拶
- 4 協議事項
 - (1) ICT(情報通信技術)の導入及び活用について
 - (2) 新3学期制の導入について
 - (3) 学校事務補助職員配置の効果と今後の増員について
 - (4) 教育への投資について
 - (5) 幼保小中高連携・一貫教育の推進について
- 5 その他
- 6 閉会

1 開会

教育総務課長（進行）

皆様、おはようございます。

本日はお忙しい中、総合教育会議にご出席頂きありがとうございます。

定刻になりましたので、ただ今から第1回総合教育会議を開催します。

開会にあたりまして、初めに市長からご挨拶申し上げます。

2 市長挨拶

市長

皆様、改めましておはようございます。

お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。また、本日は多くの傍聴の皆様に来て頂きまして、心より嬉しく思います。それだけ皆様の関心があるという事ですので、しっかりとした会にしていきたいと思えます。

冒頭、私からご挨拶をさせていただく中で、子ども達も夏休みに入ったところですが先生方はそうはいかない訳でございまして、我々も子どもの頃は先生も夏休みで良いなと思っておりましたが、とんでもない、先生は毎日現場に出て普段出来ない事であったりとか、もちろん部活があったりですとか色々な対応をしているところであると思えます。

つい先日、昨年から首長と県の教育長と懇談会をしましょうという事であった話し合いの中で、私がこんな話をさせていただいたという内容を紹介したいと思えます。教育フォーラムの方でも少しお話をするとは思いますが、御殿場市の先生方の教育に対する思いは非常に素晴らしいと思えます。学習の部分は当然学校が行うと思えますが、いじめの問題にしても、環境の問題にしてもそういった様々なことが学校だけに責任があるかという事は私にはそうではないと思えます。最終的な責任は首長にあると元々、思っておりましたから、今回、教育委員会制度が変わったとしても御殿場市は特に今までやってきた通りにやっていけばいいと思えます。

そういった中でだいたいそのような会議をやると、各首長さんは先生方がいないだとかそういった要望ばかりを県の教育長に出すのですが、私は、それはそれぞれの市町の教育長も県に言ってくれていると思っておりますので、むしろ逆の事を申し上げました。各首長に県の教育長が求める事はありますかと聞きました。というのも、例を出して、この間台湾のバナナを各学校にご協力頂いて給食の別品として子ども達に提供させて頂きましたが、子ども達は普段食べているバナナと香・味・食感が全然違うという事で非常に喜んで頂きました。後は子ども条例ですとか、いじめ防止基本方針等他の市町がやっていないことをやっている理由を申し上げました。一つは、保護者の方々が一番心配なのは事故・病気であろうと、その次に勉強かという勉強ではない、その次に心配なのはいじめられていないか、いじめられていないか、そういった面において市全体でやっていくべきではないかという事が一つです。

もう一つ、御殿場市の先生方に平日頃申し上げているのは、こういう事だという事でお話しさせて頂いたのは、教師の威厳を保ってあげることが私の仕事の一つであると、先生は教育者、私も大きな目で見たら教育者の一人かもしれないけれど私は学校

の先生ではないので、保護者とのトラブルですとかそういった問題はぜひこちら側に持ってきてくださいという事です。先生方の本来の子ども達に対する時間等、教育に没頭できる環境を作ってあげることが私や行政の仕事だと感じていると県に申し上げました。その後、県の教育委員会の先生方ともお話をさせて頂きましたが、教育委員会のここが悪いあれが悪いというのは改善すれば良い事なのですが、常に私が思っているのは先生方が先生の立場として授業ができる、教育ができる事が一番大事だと思っています。その点をこの総合教育会議も含めてしっかりとやっていきたいと思っています。

その中でも、一番大事なのは先生の威厳、これは威張る「威」ではなく師としての威厳というものを保ってあげるという事が一番大事だと思っています。それがしっかりできれば、先生方も自ずと自覚が出てくると、不祥事も自然に無くなってくると思います。逆を言えば、魔がさしてしまうのは自覚の欠如であるとも言えます。いずれにしても先生を守る、また生徒からの信頼を守る事も進めていきたいと思っています。

本日の会議、よろしくお願い致します。以上でございます。

教育総務課長

ありがとうございました。続きまして、教育長よりご挨拶申し上げます。

3 教育長挨拶

教育長

おはようございます。本日はよろしくお願ひ致します。

今お話があった中で、学校関係は小中学校が夏休みに入っておりまして、夏休みに入ったと同時にポケモンGOが日本で配信されまして、その対応に学校関係が動いているという状況があります。少なくとも子どもの生活を考える時には、健全で健やかな成長を遂げてもらいたいという思いで、様々な形で政策を打っているところです。

新しい教育委員会制度に入りまして約1年半経過しましたが、今年4月からも制度の改革の中で教育長の職も新しい制度の中でスタートを切っています。制度的にはほぼこれで整ったのかなという思いもありますが、その中でも色々な課題が出てきております。その課題についてはこの後、各教育委員さんから話題提供してもらおうという事になるかと思いますが、現時点でもう一度確認しておかなければいけないのは、教育委員会そのものは独立した執行機関であるという事です。と同時に、合議制の執行機関です。ですから、ここにいらっしゃる教育委員さんと私と5人で、様々な問題について検討していくという事は、以前も今日も変わっておりません。という事で教育委員会そのものの存在がそういった形で進んでいきますので、ここにおられる教育委員さん達は立場もバラバラで、色々な分野の代表で来られていますので、ご意見もそれぞれの発想である、それが教育委員会の良さであると思っています。

教育委員会そのものについては制度が変わったために、私が代表として出る機会が増えてきています。情動的な物は共有しないと色々な事が出来ませんので、色々な資料を教育委員さん方に提供していくのですが、その数は毎月の定例教育委員会でこなしきれないような膨大な数となっているのが現状です。それをかいつまんで整理した上で、方向性ですとか具体的な施策を提供していくこともやらなければいけないと思ひながら4カ月が過ぎています。

私の公務関係を毎月の教育長報告という形で教育委員さんに提案をして、こういったところでこういった発信をしていますという報告をしています。市長は選挙に出られた方ですので、色々な形で新聞の記事になる訳ですが、教育委員会は限られた分野を地道にやっておりますので発信も限られた分野になってきますので、できるだけ発信したものについては、こういう意図でこういう発信をしていますという、教育長の立場であるとか教育委員会の立場であるものを皆さんに紹介させて頂いて、方向性であるというものを皆さんと共有していきたいと、そんな方向で4カ月過ぎたのかなと思っています。

今後、新しい教育委員会制度の成果が出てくれば、御殿場市の教育委員会もそれな

りの価値を見出してもらえるのかなと思っています。いずれにしましても、総合教育会議であるとか、定例教育委員会もそうなのですが、傍聴ができる形になっておりますが、限られた方しかお見えにならないという事もあるので、こちらが強く発信していくという事が必要かと思っています。そんな思いで、ホームページを変更する等、様々な努力をしています。まだまだ先に進みませんが、たった1ミリでもたった1センチでも前へ進めば良いのかなという思いでやっていますので、ぜひそんなところを理解して頂いて市長部局と連携しながら、より良い教育が推進できるようにしていきたいと思います。今日は各教育委員さんから、抱えている案件の中の情報を提供して市長とお話できるという場面を想定していますので、ぜひよろしくお願い致します。

教育総務課長

教育長ありがとうございました。

4 協議事項

(1) ICT（情報通信技術）の導入及び活用について

(2) 新3学期制の導入について

教育総務課長

それでは協議事項に入りたいと思います。進行につきましては昨年度の総合教育会議において、事務局が行う事と決定されておりますので引き続き私が行わせて頂きます。

初めに、協議事項のテーマになりますが御殿場市教育委員会の現状と課題についてという事で5点ほどあげて頂いております。それでは、教育委員の皆様からご意見を頂きたいと思います。限られた時間の中でございますので、初めに2名の教育委員のご意見を伺い、一度そこで市長のお考えを頂きます。そして次に2名の教育委員のご意見を伺い、またそこで市長のお考えを頂きます。最後に教育長にご意見を頂き、それに対する市長のお考えを頂くと、そのような形で進めさせていただきますのでよろしくお願い致します。

それでは、よろしくお願い致します。

教育委員

おはようございます。座ったまま失礼します。

私からは、ICTの導入及び活用についてという事でお話しさせていただきます。ICTと言いますと、昨今頻繁に言われておりますが情報通信技術という事で各分野に普及しています。教育分野におきましても、現在、御殿場市でも導入しております電子黒板がございます。電子黒板はOHCですとかプロジェクターとは違って、そのものを操作する等機能としては高いものがあると思います。今年の2月に東京で研修をしまして、あるメーカーでタブレットと電子黒板を使った授業を体験させて頂きました。非常に感銘を受けた訳ですが、現在、かなりの数の電子黒板が導入されまして、個別に先生方にお話を伺ったところ、非常に使いやすいですとか頻繁に活用しているというお話でした。

その中で懸念に思っていた事が、一時代前にOA化が大ブームとなりました。猫も杓子もOA化という事で各企業は我こそはと言わんばかりにパソコンを導入したり、OA機器の導入をしたりという事で設備投資を行って来ました。ところが、実際問題としてパソコンを一人一台導入したら、その活用がうまくいってなかったというその当時の苦い教訓になっております。

現在は、当時導入したものを教育の中で活用してOA機器に触るという事に対して

抵抗が少なくなってきた方が増えていると思います。したがって設備が整っていないと仕事にならないという状況になりました。しかし、当時はワープロやパソコンをどのように使えば良いかという事でノイローゼになられた方も、かなりいたという事が以前、ニュースになっておりました。

OA化の時と同じような状況になっては困るというのが、まず一つです。先生方にも得手不得手があります。昨年、私の方からお話をさせて頂きましたが、今現在、先生方の多忙化という事が大きな問題となっていると思いますが、その多忙化についても完全に改善された訳では無いと認識しております。ICTを導入していくことによって、ますます先生方に負担が掛かってしまう、そして多忙化に拍車がかかる様ではマイナス面が出てしまうのではないかと思います。

今回は特に電子黒板とタブレットについてのお話をさせて頂きたいのですが、直接お話を伺うと電子黒板が非常に使いやすい、使い勝手の面でも使う人によっての差が余り出ないという事で、導入は非常に意味がある事ではないかと言うように感じております。我々が体験してきました新しい学習方法、タブレットを副教材として授業を行うという事については、ハードウェアの電子黒板・タブレットという事だけではなく、ソフトウェアの方が非常に重要になってくると思います。ソフトウェアを先生方に作ってと言ってもそれは無理な話ですし、導入するとなれば副教材となる訳ですからそれを使った授業という事になり、今度はそれをどうやって使いこなすかという問題になってくるであろうという懸念があります。

タブレットの導入ですが、実際に授業をするのであれば一人一台で教師とクラス全体の相互間において電子黒板を使って表現をしながら授業を進めていくという事が、理想的であると思います。ですので、実際、特別教室に一人一台タブレットが一番現実的ではないかと思いますが、これから電子黒板を全ての学校に普及させて、今後タブレットも導入するという事を考えますと膨大なお金が必要という事になってきますので、私もまだ任期が残っておりますので、電子黒板とタブレットの活用方法について研究をしましてある程度案が出せればなと言うように考えております。

ICTを導入することによって当然、児童・生徒の教育にプラスになるとは考えていますが、先程も申し上げました通り教師の多忙化の面から言ってマイナスにならないような活用ができれば良いかと考えています。

教育委員

こんにちは。座ったまま失礼致します。

私からは、小中学校の学期制を現在の2学期制から新しい3学期制に移行することについて市長のお考えを伺いたいと思います。市内の小中学校では、先週の土曜日から夏休みに入っております。子ども達は普段の学校生活と違って心弾ませて夏休みを迎えたのではないかと考えております。

私が子どもの頃は学校と言えば3学期制が当たり前で、夏休みの前に終業式を行い、4月からの生活に一区切りをつけて通信票をもらい、親にドキドキしながら嫌だなと思いつつ、成績が良くなった時には嬉しい気分で見せるというそういったシーンがあったと思います。現在、市内の小中学校は2学期制となっております。3学期制と比べ学校の教育課程にゆとりが生まれ、子ども達も先生方も時間的・精神的に余裕ができています。他にも、授業実数の確保ができたであるとか、3学期制よりも作成する資料の量が減って時間的余裕ができ子どもと接する時間が増えたというお話を伺い、それは学校を2学期制にしたメリットだと思っています。

一方で、前期と後期の間に休みが短いために、子ども達の後期への気持ちの切り替えが難しいようであるという声や、夏休みや冬休みの前に通信票が無いために、休み中の目標が持ちにくいといった声も聞いています。中学校においては3年生になって進路選択があるのですが、その際の教育相談の際に成績状況が分かりにくく、子どもの将来にとって重要な進路準備に時間がとても必要になるので大変だというお話も聞いています。

こういったことから、現在、市内小中学校の校長先生・教頭先生が委員となっている教育課程研究会では、これまでの2学期制のメリットを最大限に生かし、子どもの生活に季節に応じたメリハリを持たせ、目標をより明確に学校生活・家庭生活を送ることができる新3学期制の導入が検討されています。御殿場市の教育が目指す、幼稚園・保育園・小学校・中学校・高校が連携した一貫教育の推進という事もあり、2学期制となってから10年が経とうとしているところですが、市内の小中学校も3学期制への移行を考えなければならない時期に来ているのではないかと考えています。

あくまでも、子どものための新3学期制としなければならないと思います。先生方が子ども達と向き合う時間が減ることなく、子ども達の豊かな感性や知性、健やかな心身を育む教育を進めることができるよう、また、先生方が今以上に忙しくならないように教育委員会としても様々な事を考え、一生懸命行動していかなければと思います。

子ども達やその保護者にも新3学期制の周知を十分に行って行かなければいけないと考えています。保護者としては、子どもの頃から3学期制が体に染みついているという事もあって、季節感をもって学期ごとの目標を学校や家庭での生活に生かすことができることは子どもにとっても良い事だと思っています。新しい3学期制の導入について、どのようなお考えかお聞かせ願います。よろしく願います。

教育総務課長

ありがとうございました。

それではここで、市長のお考えをお願い致します。

市長

一つ目のICTに関しましては、電子黒板は他市にも先駆けて、財産区及び各法人のご協力を得まして大分整備されている状況です。当初、電子黒板につきましても、先生方が電子黒板をどのように使うかという事が一番心配でありました。ただ、電子黒板は図形ですとかそういった物が立体的に見せられたり、問題を作成する際に黒板に書く必要が無くなったりですとか、動きがあるものや歴史の写真等にも非常に効果があるし、先生方も最初は戸惑いもあったかとは思いますが操作上の難しさもそこまで無かったと、今のところ電子黒板にはビジュアル効果がありますし今後もそれは活用していった方が良いのかと思います。

一方、タブレット端末ですが、これは既に取り入れているところもあると思います。佐賀県の武雄市がそうであると思いますが、それが良いか悪いか、電子黒板は明らかに見やすい分かりやすい、説明がしやすい、子ども達が飽きないで集中して見られるという事があるかと思えます。タブレットもそれはあるかと思えます。後は宿題等も同じように配信しやすいといったことがあるのだとは思いますが、慣れればそれは良いとは思いますが、それと今の状況を比べて、それだけのメリットがあるかないかという事が問題になってくるかと思えます。

電子黒板は明らかにメリットがある、ではタブレットにする理由があるかないかというところがポイントだと思います。それは、先進的なところが試験的にやってくれているのでそういったところは見えていく必要があるかと思えます。電子黒板よりも、先生方が厳しいのではないかという現状があるかと思えます。使いこなせるかという事が課題だと思いますのでそれを考えると、まずはタブレット端末にするメリット・デメリット、私は学校よりも先に市議会や市役所に入れた方がよっぽど効果があるかと思えます。紙の量だけでも全く違いますので、そちらの方が先かと思っていますが、子ども達の教育にタブレットが必要かどうかというのはいささか疑問が残るか、要はタブレット端末で無ければ教育ができないかというところではないかと思えます。ただ、電子黒板も最初はそのような事はあったと思うんですね。でも明らかに電子黒板は、動きが見えるというのはすごく良かったと。ですので、タブレットもそういった意味ではとても良いとは思いますが。

電子黒板も全教科で必要かという問題があるかと思えますが、タブレットもその辺は見極めながらの導入になっていくかと思えますし、ただ、導入となれば御殿場は教育に関して地域が非常に熱心に協力をして頂けるので、その辺のところもまたご協力を頂けるのかなという期待はあります。何度も言うようですが、見極めていく必要があるのではないかと思えます。

3学期制についてですが、一言で言うと3学期で良いのではないかと思えます。と言うのは、もちろんこれはメリット・デメリットがあって、2学期制にすると当然先生方のゆとりは生まれてくるかと思えます。学期ごとにまとめなければいけない物が2

回で済む訳ですので、これは当然の事であると思います。私の子どもの時は3学期で、中学校まで3学期でしたが、高校になったら前期・後期となってピンとこなかったんですね。前期と後期の終わりが分からないというか、何となく流れてしまってなんだかよく分からないという状態でした。

明らかに、3学期になれば夏休み・冬休み・春休みと保護者も分かりやすい、子どもも分かりやすい、先生も分かりやすいということだと思っておりますが、そこで気を付けなければいけないのがやはり、先生方の多忙化についてきちんとした対策ができるかという、細かくやる必要は、私は無いと思っておりますのでそういった意味では、やわらかい3学期制で良いのではないかと思います。

それよりも、冒頭申し上げた通り先生が先生らしく教壇に立てることの方がよっぽど大事なので、多忙性を削ってあげる事がとても大事だと思いますので、先程のタブレット端末もそうなのですが先生の負担にならないように、最初は仕方ないにしても将来的に負担になるのはよろしくない、3学期制についても同じ事が言えると思います。多忙になったせいで先生方が子ども達と接する時間を減らすかと言うと、そうではないと思います。子ども達と接する時間は確保しつつ、自分の時間がどんどん無くなっていくという精神的にもやはりきつくなっていくと思うので、それは避けなければいけないと思います。その辺は岩瀬委員がおっしゃったように、2学期制の良い面も残しつつやっていくことが重要ではないかと思います。

これは一応、私が答えるようになっておりますが教育長はどうお考えでしょうか。

教育長

I C Tの関係は市長がおっしゃったように、過去のいきさつの中でパソコンが学校に入る時代があって、そこから今タブレットの話が出ている訳ですが、子どもの感覚はパソコンを導入した時もそうだったのですが、大人よりも子どもの方が、適応力が上で生活の中にそれが溶け込んでいるために、中学校分野でパソコンのキーボードを習うという部分があったのですが、それは小学校の段階でほとんどクリアされていきました。

子どもの発達状況を鑑みた時に、電子黒板を含めてI C Tの関係というのはかなり先へ進んでいくのだろうなと。タブレットについては、今おっしゃられたような色々な事があるので、ここから検討していくのですが、少なくとも懸念しているのはパソコンが入った時にパソコンがどういう風に使われるかという事で右往左往したのですが、それが今度定着していきます。電子黒板についてもほとんどの先生方が使えます。けれども、子どもにとってみればそれは当たり前なんですね。要するに、気象予報を見ているような雰囲気そのまま見えていますから子どもの感覚には何ら違和感がないと、大人が感覚を変えていかなければいけないというところがあるというので、そこをこれからの課題にしていかなければいけないと思います。

2点目の新3学期制の話題ですが、これは実は大きな問題がいくつかあるのですが、少なくとも10年間2学期制で進んで、駿東地区の2市3町は全て同一歩調でやってきました。色々ないきさつがありまして、隣の裾野市が今年から新3学期制に移行しているのですが、御殿場と小山は北駿音楽会もあるように北駿何々という形で様々な行事を共通してやっています。そのため同一歩調で行きましょうよという事で、今年1年間かけて検討して来年度以降に移行すると。先程、委員さんがおっしゃったように季節感にとってもこだわっています。やはり3学期制を導入した時に、御殿場に住んでいるからには春夏秋冬の季節感が子ども達の生活に反映するというのが大きいかなと思います。

かつては秋休みがあって区切りがあったのですが、2学期制になった時にその秋休みはどこかに行ってしまいましたよね。全然認識されないような状況にありますので、その辺を含めて今検討して、単なる3学期制に戻すのではなくて、新しい3学期制にする時にどこがポイントになるかという、全ての行事の見直しをしていきますので市民の皆さん、保護者の皆さんには2学期制を導入した時と同様に新3学期制に入るという内容をきちんと周知して入って行こうと現在準備していますので、ぜひよろしくをお願いします。

教育総務課長

ありがとうございました。ただ今、市長並びに教育長からお話を頂いたところであります。ただ今のお話につきまして委員の皆さんから更なるご意見等ございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。後程また、機会がございますのでまたその際にお問い合わせすることといたします。

4 協議事項

(3) 学校事務補助職員配置の効果と今後の増員について

(4) 教育への投資について

教育総務課長

続きまして、2名の委員さんからご意見を伺います。よろしくお願い致します。

教育委員

よろしくお願い致します。市長さんのお話を大変心強く伺っておりました。

私は教育現場におりましたけれども、その後12年位経ちまして、今、孫を通じて学校を見るが多くなっている訳ですが、市長さんがおっしゃったように子ども達が元気で生き生きと勉強してくれるという姿を望んでいます。

そんな中で、御殿場の教育委員会が主要施策の一番に掲げている、「魅力ある学びの充実」これに関わる事で、市が先生方に対して学年事務補助を配置して下さったという事に繋げてお話をさせていただきます。

前回、2月に行われた総合教育会議において、部活動に関して先生方が大変長時間の勤務をしているというような多忙化が話題に出された訳ですが、そんな中、市長さんから忌憚なく幅広いお考えを伺って、私としましては先生方の実情を本当によく分かってくださっているという嬉しさを感じました。私も多忙感を感じながら四苦八苦していた訳ですが、教育委員という立場を頂きまして文部科学省の研修会や他県の教育委員さんとの研修会に出席する機会を頂きまして、先生方の多忙化は全国的な問題であるということで説明を頂きました。

今までとは比べ物にならないというのが、年々、学習指導要領の関係で教育内容が増えている、授業数が増えたり新しい教科や教育内容が次々と教育現場に入り込んでいたりしている、ICT教育もそうなんですけれども、3学期制に移行するにあたってより多く実施していくためにはやはり色々なものを使って先生方が検討していかなければいけないと思います。また、地域の方々に学校の色々な事を分かってもらう、そのための先生方の仕事も増えてきているのではと思ひまして、自分としては大変危機感を感じました。

文部科学省もその辺りを重要視しておりまして、色々な方策を打ち出そうとされているのですが現状、現場までそれが届いていない状況があるのではないかと考えております。本当に先生方が、子ども達としっかりと向き合って、子ども達の小さな変化や成長を拾い上げたり、昨日と違う子ども達の様子を拾い上げる、そして良いコミュニケーションを取りながらそれを学級の中で子ども達が安心して勉強できるという、

そういった先生たちの役割というのは本当に大切に、御殿場市の先生方は本当に頑張ってくださっていると色々な授業を見させて頂いたり、お便りを拝見させて頂いて頭が下がる思いで見えております。

先生方が子どもと向き合う時間を拡充し、授業時間を確保するための物理的な支援が御殿場市ではされているという事で、私は大変これはありがたく画期的な事業であると思えました。多忙化状態が続く教職員が事務処理等に追われることで子どもとの関係が希薄にならないように、学級担任が行っている事務関係の仕事を支援して頂くという内容のようです。この事業を平成27年度の教育委員会の自己点検・評価の中で見させて頂きますと、配置されている学校の全ての先生がこの配置によって、子どもと向き合う時間が増えてありがたかったと喜んでいらっしゃいました。これはとてもありがたい、先生方への応援の一つではないかと思えました。

引き続き配置をしていって頂けたらありがたいと思いますので、市長さんのお考えをお聞かせ願いたいと思います。よろしくお願ひします。

教育委員

私は教育への投資という事で、根本的な問題であります予算の関係について市長さんのお考えを聞かせて頂ければと思います。これからまた予算編成の時期になりますので、ぜひその辺を踏まえてお考えを聞かせて頂ければ幸いです。

自分が教育委員になってから、教育委員会のハード面では無くてソフト面、特に教育指導センターですとか夢創造事業に色々な予算を付けて頂きまして非常にありがたく思っています。今の教育の重要施策の一つとしまして、市長さんが考えているのが人づくりという事で、そういう面に関して予算付けをしていただいている事は非常にありがたく思い感謝しております。

ただ、昨今の経済情勢ですとか国の動向を見ても、なかなか教育の方に予算を付けるというのも渋っているといいますが、少子化で子どもの数が少なくなってきていますのでそれはそれで一理はあるかと思いますが、国は先生の定数を減らすとか財務省の考えもありますのでこれからなかなか、教育関係を守っていくというのも厳しいのではないかと思います。

先程来、話に挙がっております電子黒板の関係の整備につきましても、国や県の考えというのは非常に大雑把といえますか、地方交付税の中に含まれているですとか、指標だけ出して財政的支援をしないとかそういったことがあります。今後、御殿場市においても教育以外の面でも多額の予算が必要となるとは思いますが、その辺の関係につきまして今後とも、教育は未来に対する投資という事で結局、人づくりの中で将来的に子ども達が御殿場市に戻ってきてくれて、そして御殿場市民税を納めてという循環的なものになると思いますので、ぜひ今後とも教育に関して多額な予算を付けて頂けるようお願いをしたいと思います。

それを踏まえまして、市長の教育にかける意気込みを予算面から等伺いたいと思いますのでよろしくをお願いします。

教育総務課長

ありがとうございました。市長のお考えをお願い致します。

市長

学校事務補助職員の配置については、これも要は県費ではなく、各自治体がいわゆる市単で行うものですから、本来県がやるべきであろうと、県が余裕を持って各学校に配置すべきだという事を他の首長さんは言っている訳です。私はそれは言わないのですが、ただ最終的にそうやって頼るばかりではしょうがないという事の中でやっています。配置については力を入れているところであり、今のところは不足という風には考えてはいませんがやはり不足だよという事であれば、当然関係部署と相談しながら、いたずらに増やすのではなく、本当に必要性があれば増やすべきであってそれは意気込みも含めて増やしていくべきだと思います。

これはまさに委員さんがおっしゃったように、私が感じているのは少子化、少子化と言っているのに、国の施策とすると少子化対策と言っておきながら医療に関しては小児科・産婦人科の医師が増えるような施策は何一つたない、学校に関しても昔は学校の先生になるのが難しいと、あれだけ学校の先生を要望していたのに、今もそうだと思いますがそれなのに学校の先生を増やさない。国防だと言っても、国を守らなければいけないと言っているくせに自衛隊は増やさない、何なんでしょうかと。一番の問題は国会議員がもう少ししっかりして欲しいと、そう言うと言語弊があるかとは思いますがそこにあると思うのです。

特に、国の予算は増えないというのは静岡県内の首長さん、もちろんそこは私も共通して認識していますが、それは無いだろうと。やはり教育というのは未来への投資であって、本当にその通りだと思います。

つい先日、樹空の森で地球（ちだま）フェスタというのがありまして、そこにシリアの大使がいらっしゃいました。女性の方だったのですが、それこそ羨ましいんですよ、日本の平和というか。シリアも元々は色々な所から色々な人が入り込んでも、すごく良い国だった、平和な国だったとシリアの人達はそこが自慢だったんですよ。ところが一転してこうなってしまったと、何が起きたのかというと、シリアの大使が皆さんに言っていた話の中で印象に残ったのは、12歳の子どもが捕まえられて首をはねられたと、12歳の男の子ですよ。気に食わなかったのか騒いだのか何かあったんでしょうけど、そういう事が起きてしまうというのを聞いた時に私はこういう風に答えたのですが、という事は、殺害をした兵士も12歳の頃もあったはずなんですよ。我々もそうなのですが、そういう時期があって色々な良い教育を受けてきたから

こそ、また良い教育をしてあげたいと思っていると思うんですよね。教育というのはとても重要で、今日の朝の事件も皆さんご存知だと思うのですが、あんな事、普通だったらありえないと皆さん言うじゃないですか。ポケモンだってそうです。いい大人が夜中にうろちょろ公園で何をしているんだと思います。そういう事をしない人、何を馬鹿な事をしているんだと思う人からすれば何でもありません。と言うのは、教育がやはりしっかりとしていれば、じゃあシリアの男の子は死ぬ必要があったのか、じゃあ今日、障害者の施設でああいう事件が起きていますが、その人達が死ぬ必要があったのかと、逆に言うと死ななくても済んだのではないかという事があると思います。

人間形成で一番大事なのは、私は家庭だと思います。家庭・地域この順番だと思います。それを間違えてしまうので、なんでも学校となってしまう、先生の負担も増えてしまうし子の負担も増えてしまうしそうすると、すぐ人のせいにするんですね。社会が悪い、景気が悪い、学校の先生が悪い、学校が悪い、挙句の果てに市長が悪い、私は悪くないよと言いたいけれどもそういう事です。

そういった事をしっかりやっていくためには、しっかりとした予算の問題もあって、お金の問題をしっかりとしていくというのはタブレットも含めて、そういった環境を作っていくことが一番大事だと思います。

それは何の環境を作るかと言うと、子ども達が学びやすい環境と先生達が教育に没頭できる環境です。その教育に没頭できる環境なのに怠けている教師がいたら、それは叱っていいと思うのです。色々な人が、先生しっかりしてくださいよと言うのはいいけれど、そうではなくて今の先生達を見ていて本当にかわいそうなのは、いつ何を言われるか、何かすれば保護者に何か言われると、ある意味押しえつけられた中での教育ですからそんな教育をしていて良いはずがない。

御殿場の教育が良いというのはそれでも、学校の先生達が頑張ってくれている、プラス面倒な問題は全てこちらに持って来てくださいという、そういった事を県の方に言ってきた訳ですが、県の教育委員会は皆さん御殿場市長のように思ってくれば良いと言っていたけれども、それは私がすごいとかそういった事では無くて当たり前の事だと思うのです。

だから、教育に対してお金をかけない国というのは私は将来的には滅びると思っていますので、御殿場市に対してこれは熱意と言うか思いですけれども、御殿場市の教育にお金をかけないという事は絶対にありえない。給食も将来的に含めて、やはり義務教育だからと言って、ご飯を食べる以上お金を払うのは当たり前だろうと、でもそれも先生方に見えない負担がある訳じゃないですか。集金であるとか、なぜ先生方が嫌な思いをしなればいけないのかと。払わない親に対して、なぜ先生がそのような辛い思いをしなればいけないのかと考えると、そういった部分も検討していかなければいけないと思う訳です。

我々が考えるのはそれでもやはり子ども達が、しっかりとした食事をする、食育も含めて健康な体を作るという事が大事ですから、そのためにそういったことも予算化していく事が大事なのかなと思います。

やはり優先順位を決めて、子どもの医療費もそうなんですけどそういったことをやっていくのが非常に重要で、教育の予算を削るなどということはもってのほかというか、私は、国会議員は本当によく考えた方が良いと思います。現場の、県も含めた各自治体の意見ももっと聞くべきだと思うんです。今の国会議員さんが聞いているかという、多分知らない、恐らく言っても聞かない。

それから今回、本当に良かったと思います。県の教育長との懇談が去年から出来るようになったというのは非常に良いことだし、でも本来はそういった対応も我々だけではなく、首長にはやはり限界があります。市の予算はコントロールできますが国の予算はコントロールできないので、県の予算であれば県議、一番重要な国はどうなっているかという、そこが一番課題かなと。やはり国が、しっかり教育の指針が書かれていると思うんですが、それを議員さんが理解してそれをバックアップする体制があるかという、まだ少し欠けている気はします。ですので、その辺、我々首長としても頑張っていかなければいけないと思っています。その問題と土地利用の問題に関しては相当きつくは言っています。教育の、特に先生の多忙化や先生の先生たる立場を保つという事に関しては、かなり強く言っています。

色々な予算はもちろん大事なので限られた予算の中でやる訳ですが、いくら少子化だと言っても、だからこそしっかりと教育をする事によって子ども達を産みやすい環境を作るという事が大事だと思います。

その中で、今のお話とは関係ないのですが、と言っても違う意味ではとても関係するのですが、私が今考えているのは、公民館やコミュニティ共用施設を何とか活用したいんです。放課後児童教室は子ども達の活動の場所としてそれはそれで良いのですが、安全性だとか責任の問題も出てくるので今の状況はそれはそれで良いとは思いますが、せっかくおじいちゃんおばあちゃんが地域にいて、おじいちゃんおばあちゃんが子ども達の事を本当に思ってくれている地域なので、しかも色々な知恵もあるし様々な事を教えてくれるんです。ですので、本当は子ども達の居場所として、どうしても家に居てもお父さんお母さん共働きでいないという子のためにも、何とか公民館やコミュニティ共用施設を利用できないかと思います。その中で特にお年寄りも子ども達と触れ合うことで元気が出るでしょうし、認知症防止にも繋がるであろうし、引きこもりからも解放されるであろうし、何より楽しみができるのではないのでしょうか。全学校区にかなりの公民館・コミュニティ共用施設あるので、それをいつも使っているかと言ったら、使っているはずがないと思います。むしろ夜が多いのかと、また、使っているところに子ども達が居たって別に良い訳ですね。じゃあ、管理人が必要だから管理人をおけよという話ではないと思うんです。そうすると、難しい話になって

しまう。それよりも、もう少し自由に、区民のための公民館であってコミュニティ共用施設であると思うので、その辺を区でも話し合ってもらってと思います。

話が逸れてしまって申し訳ないのですが、そういった子ども達を見守るといって学校以外においても教育する、さらに子ども達がそこで楽しめるという事もあると思います。宿題をするですとか、孤独でいるより良いと思います。さらに言うと、独りでご飯を食べる子どもがいるという話があるかと思いますが、それはやはり子どもも慣れてしまえばどうも思わないのかもしれないけれども、良い事かと言ったら決して良い事ではないと思います。そういう空間も提供できればと思います。

そういった場所にも公民館・コミュニティ共用施設が一番良いと私は思います。こういったことはお金をかければ良いという事ではなく、お金をかけなくてもできる。しかも地域のおじいちゃんおばあちゃんの活性化にも繋がる、子ども達もコミュニティもとれるようになる、コミュニティがとれるという事はいざという時に強いという事です。また普段おじいちゃんおばあちゃんと触れ合う事が無い子ども達が触れ合う事によって、例えば小学校高学年になった時にいつもかわいがって来ていたおじいちゃんが亡くなったとか、おばあちゃんが亡くなったと、そういった時にどう思うかという事も重要ではないかと。また、話を聞いてあげるとか聞いてもらうとかそういった間に、やさしい心が育まれると思うんですね。

そういった事を一番に考えているのですが、優しい心を育てたいなというか、他人はどうでもよいというのではなく困っている人がいたら手助けができるとかそういった気持ちをいつの間にか作ってあげたい。そういう効果もあるのではないかと思います。

以前、議会でどなたかのご質問にお答えした事があったのですが、脱核も大事なのですが、それよりも私は脱核家族化の方が大事だと思います。核家族になっているのが一番良くない。日本が日本らしく無くなっていくのは、核家族化だと私は思っています。そうは言っても生活の形態を変えるという事はなかなかできないことであるので、おじいちゃんおばあちゃんに活躍して頂く場を作ってあげるといのも一つかなと思います。

余談になりましたが、それも含めて回答とさせていただきます。教育長何かございますか。

教育長

二人の教育委員さんも指摘されているように、教育委員会が一番欲しいのはマンパワーです。どうしてもマンパワーが必要で、調べてみましたら昭和50年前後位に御殿場市は各小中学校に市単の事務官を配置していただいています。これは、小中学校の県費負担の事務職が一人ずつしか配置されていなくて、公立の学校を見てもらえば分かるんですが、事務室には複数人の事務官がいるのですが小学校中学校に一人しか

配置してくれません。そのために、市の方で事務官を配置してくれたというのは、御殿場は本当に先見性があったのだと思っています。同時に、先程話題になった事務の補助者もそうなのですが、養護教諭の複数配置も大きい学校については市単で配置してもらっています。

同様に、少子化の時代ですので子どもは減っている訳ですが特別支援教育に関わるような子どもは割合が増えてきて、どちらかというと教員の浸透の中で目が行き届いたという面もあるのですが、御殿場市内でいうと高根中学校以外の15校に特別支援学級があります。玉穂小学校は特別支援学級が5クラスある状況で、中でも知的障害と情緒障害とある訳ですが、情緒障害の子どもさんが増えてきているのは事実です。ですから、そういう子どもさんが集団の中にいる時は何が必要かと言うと、一人の先生ではまかないきれないという現実があって、これも御殿場市は補助者を入れてくださっています。

もう少し言うと、小学校だけでなく幼稚園・保育園の方もサポートしてくれていますから、公立の幼稚園・保育園の補助者の配置についてはたぶん県内でも先端を行って、やっつけているのかなという思いがあります。

予算面で言うと教育委員会は、ソフト面で言うとミカン箱かリンゴ箱かを使って我慢するから、人を何とかしてもらいたいという気持ちでいる時期もありましたから、人をなるべく配置してもらおうという、人が人を育てるという事は原点だと思いますのでできるだけそこをよろしくお願ひしたいなと思っています。

以上であります。

教育総務課長

市長、教育長ありがとうございました。

ただ今のお二人の教育委員さんのご意見、それから市長からお考えを頂いた訳ですが、それらに対しまして皆様から何かご意見・ご要望等がございましたらよろしくお願い致します。

よろしいでしょうか。

4 協議事項

(5) 幼保小中高連携・一貫教育の推進について

教育総務課長

では、教育長も教育委員会の構成員のお一人でありますので、その構成員としての立場からお考えを頂ければと思います。よろしくお願い致します。

教育長

御殿場市の教育の大きい柱として、幼稚園・小学校・中学校の連携一貫教育というのを推進している訳ですが御殿場市としても子育て支援、真の日本一という事で子育てに寄与するという意味合いでいけば、教育行政としてもこれについて少し言及したいと思います。

教育委員会としては、幼稚園・小学校・中学校と言いますと少し年齢が限定されている部分があるんですが、私たち御殿場市教育委員会は0歳児から18歳までの子どもの育成を視野に入れて進めようというところを考えています。ここ一年位、様々なところで発信しているのは子育て四訓という言葉があるので敢えてこれを言わせてもらっているのですが、乳児と幼児と少年と青年という4段階に分けてお話をさせて頂いています。

乳児はしっかり肌離すな、幼児は肌離して手を離すな、少年は手を放して目を離すな、青年は目を離して心離すな。ですから、肌・手・目・心という四つの言葉が出てきて、これは子育て四訓という言葉で残っているんですね。こういう意味合いでいった時に、0歳から18歳、特に18歳にこだわったのは選挙権の関係もあるんですが、この北駿地区は義務教育の小学校・中学校にプラス地元の高校との連携がかなり進んでいます。これは恐らく県内でも突出しているのではないかと思います。そこを前提にしながら、私達の中では幼児教育・幼稚園教育と義務教育の小中学校を母体にしながら、例えば幼稚園と保育園の連携であればこれは御殿場市の中でできる事ですので進めています。様々な研究会を同時に開催する等前向きにやっています。

常々言っておるのですが、教育の根幹は何かと言うと、人生の生き方の種まきをする事という言葉がある位で、子どもの時代の種まきというのは必ずそれが芽を吹いて成長につながるという事を考えますと、人生を左右する故に、先程市長もおっしゃられたように、学校だけが担うというのは上限があります。今、多忙化という問題が話題になりましたけれども、その中で何がと言うと、保護者や地域の方々に理解して頂かないといけない事の 하나가、学校が担える範囲があるという事です。24時間全てできるという訳ではありませんで、今は、幼稚園で3歳児の子どもがオムツが取れないと言ったら、それは幼稚園の仕事でしょと言われたという現実問題がある訳ですね。

これは論外なんです。一番大元が、先程市長がおっしゃられたように家庭教育があって、そして次にというステップがあるんですね。ただし、家庭教育と地域の教育ですとか学校の教育と言った時に、それぞれの言い方がありまして、家庭に吹く風を家風と言います。地域に吹く風を気風と言います。学校に流れる風を校風と言います。

家風であれ、気風であれ、校風であれ、風というのはバラバラに吹いている訳ではありませんから、どこにも同じ風が吹くんですね。と言う事は、先程ご指摘もあつた通り家庭の責任ですとか、地域の責任とか、学校の責任とか言っても始まらないんですね。みんな三位一体でやっていかなければ進まないという事を前提にしないといけないので、持ち分を互いに理解しましょうよという事をやらないと、この多忙化の解消という事も進まないのではないかという事でそれを戦略的に進める方策を、現在考えています。

究極は、地域の中で子どもが育つというそういう言い方をする時に、皆さん方にも分かって頂きたいんですが、学校というのは地域があつて学校ができる訳です。学校ができて地域ができた訳ではありません。人々が集まってくるからそこに学校ができた訳ですから、その意味合いからいけばやはり母体は家庭があつて、地域があつて、学校というこういう順番になろうかと思えます。そのところを思うと、3歳児保育の在り方であるとか、あるいは幼児教育の重要性、あるいは義務教育の展開というのは他部局との連携もやらないといけません。幼児教育と言えば当然教育委員会だけでは進みませんので、市長部局との連携を図って進めていきます。

先程少し申し上げましたが、地元の高校とは、御殿場市内には御殿場高校、御殿場南高校、御殿場特別支援学校、私立の御殿場西高校があります。北駿地区で言えば、隣の小山高校があります。これだけの高校がある地域と言うのもまた珍しいと思えます。という事は、その公立私立の学校と、小山町の3校の中学校、御殿場市の6校の中学校がありますので中学校の9校と高等学校の連携を、今やっています。情報交換会的なものも実際進めています。ですから、これがきちんとしたものが定着すればかなり大きい動きになるかなと思っています。

一つの形とすれば、この高等学校の皆さんが地域の防災に顔出ししてくれて形がしっかりできるとか、避難地に高校が入るだとかそういう形の物が今できておりますので、これも御殿場市の特色ある取組とすれば、幼稚園・保育園・小学校・中学校・高校、0歳から18歳までのくくりの中で御殿場市の教育を担うという方向を見出していけるような気がします。

このところ、敢えてこの言葉を使わせてもらってるのですが、全うな大人にするという言葉を取上げて言っています。教育の根幹は人格形成です。これを思う時に、先程言った家庭であるとか、地域であるとか、あるいは学校が連携を図ってやっていくと言う時に、子どもの健やかな成長を遂げなければいけません。先程これも話がありましたが、例えばいじめという言葉が出た時に、色々な条件整備をしていきます。法

的なものを作って社会総がかり、市民総がかりでやるという事ももちろん大事です。だけれども、一番根幹は何かと言うと人の道を問わなければ、人の道をきちんと教えなければこれは根絶できません。

では何かと言うと、小さい時に善悪の判断ができない、卑怯なまねをする、そういう家庭のしつけの面から、あるいは学校は集団の生活をしますので集団生活の中での道徳心であるとか、マナーであるとかそれを身に付けなければ正常な大人になっていかないんですね。ですので、家庭という小さなくくりの中での教えと集団生活の中での教えというのをきちんとやらなければいけないという事を意識しています。それをどちらの責任と言うよりも、その連携を元にしながら子どもさんの成長をもって18歳で責任ある立場になった時にそれなりの考えを持って欲しいというのが願いです。

道徳が今度、教科化するのですが、それとは別に御殿場市は「ふじさんのように」という立居振舞の冊子を作りました。小学生・中学生に持ってもらっているのですが、これも実は人の道を説くための手立てとして持たせたかったんです。これは御殿場独自で作りました。そういう物があるという事は、御殿場市の行先を意識して作ったという事をぜひ分かってもらいたいと思います。

先日、徳川氏御殿造営400年記念のシンポジウムがあって、市長がパネリストとしてお話され、私もお話を聞かせてもらいました。景観10年、風景100年、風土1,000年という言葉があります。教育は100年と言われますが風土1,000年と言う時の風土とは風の人と土の人ではないでしょうか。余所からお見えになる人もいます、色々な経緯があって御殿場にみえられた人もいますが、これを単なる風の人と言うのではなく、その方達が運んできた種なりそういったものを元にして、それを土が育てる。風土と言うのはその両方が無ければできないという発想ではないでしょうか。

という事は、風土1,000年という発想は今から過去の1,000年と言ったら紫式部が生きた時代です。これから1,000年と言った時に、どうなるかを考えた際に先が全く見えないという事ではなしに、過去の振り返り、1,000年前にはこういった事があった、この先にどうなるかと言った時に、市長がシンポジウムでお話をされた中で今ある御殿場の姿をと当然ながら解いていきますが、風土1,000年と言った時に400年の区切りを見て、これから600年の姿をたぶん意識していくんだろうなと思いました。

こここのところの大きな姿勢というもののの中に、ぜひそれを期待しているのですが、1,000年の区切りという長いスパンですがそれを考えていかないと、中々教育というのは費用対効果だけでは理解してもらえませんが、子どもが大人になってさらにまた子どもを育てていくというその順繰りをまたやっていながら、地域そのものがそれなりに落ち着いていくという事であるならば、それは大変すばらしい事であると思います。教育というのは、そういう方向でしか活路を見いだせないというか、未

来への投資と言いながら、投資したものが姿になるのには大人になっておじいさんになった時に自分の子ども、孫という風に代々伝わっていくという事を意識して、自分の思いが伝わっていくという事が大事なのかなと。私はそういう思いで教育の行政のある機関だけを担っている訳ですが、それを繋げていきたいなと思っています。

市長は市政として御殿場市全体の育成を考えながらやられてる訳ですから、恐らく長いスパンでその位置づけを考えておられると思いますので、私達が担っている教育の思いと市長の市政に対する思いを上手に合わせて頂ければと思います。私は私の思いを話させて頂きましたが、市長さんの思いをお話して頂ければありがたいと思います。以上です。

市長

教育長とはよく話をするので、よく分かって頂いているかと思うのですが、正直な所、思いはほぼ同じです。行政的な部分から見ると、まちづくりということを考えていった時に、先程何人かの委員さんもおっしゃられたように、まちづくりはやはり人づくりなんですね。御殿場らしさというの、人が作るもので、そこにはやはり環境が関係してくるのではないかと思います。まさに、御殿場は富士山の麓で、富士山のように大きな心を持つという、そこではないでしょうか。

今回、台湾バナナの件に関してもなぜ台湾なのかというの、実は教育長にも抜粋をして頂いて職員にもかなり読んでもらっていると思いますが、台湾で活躍している日本人、世界の偉人の中で台湾で一生懸命やった方が何人かおられる訳ですが、なぜ台湾化と言うとそれは親日だからです。ではなぜ親日なのかと言うと、日本人も台湾人が嫌いと言う人は余りいないかと思いますが、それはもちろん御殿場市がオリンピックパラリンピックを誘致するのにも、そういった事は大事ですのでなぜ台湾かと言うとそういう事です。

台湾人が、「あなたは日本人の心を持っているね」と言われるのが一番のほめ言葉であったと。逆に言うと日本人にとって、こんなに嬉しい褒め言葉はありませんよね。その日本人の心というか、日本人らしさ、結局はそれも教育からできている訳ですよ。戦争等もあって色々あったと思うのですが、でも、日本人らしさ・日本人の魂と言うのは先祖代々受け継がれてきた、まさに日本の風土や国土が作り上げた日本人の気質ですよ。

ですので、それを守っていくことが私は一番かなと思います。御殿場らしさを守るという事は御殿場の教育にも繋がるのではないだろうか。御殿場の子ども達が成長していく中においての、まちづくり、景観づくり、自然を守る、環境を守るという事に対する学習をする事、興味を持つ事が子ども達だけでなく、やはりそれを作り上げていくのは大人だという事を大人達が自覚すると、その事が実は子どもにとって一番良いというように思っています。

例えば台湾であるとか、色々な事を子ども達には吸収してもらいたいなど、まさに富士の麓の美しいまち、良い環境のまちというものを受け継いでいく、それが600年ないし1,000年受け継いでいくというのが一番、御殿場らしさだと思っているのでそこを大事にしていけば自ずと、日本人らしさが一番残る御殿場市に繋がっていくと思います。

まちづくりをしていく中では人づくりといった中での、先程から申しております通り予算も含めた上での未来への投資というものが大事であって、それをこの環境の中で行っていくことが御殿場らしさという事であると思います。

教育総務課長

ありがとうございました。ただ今皆さんに一通り、教育の現状と課題についてご意見をそれぞれ述べて頂いたところです。

ここで、全体を通しましてもう一度聞いてみたいというような事がございましたらご発言を頂きたいと思います。いかがでしょうか。

教育長

一つだけお話をさせてください。明後日、7月28日に御殿場市の教育フォーラム、市内の先生方全てが集まる会が行われるんですが、今年で4回目になります。その中で市長にも冒頭にご挨拶頂きますのでよろしくお願い致します。

この日に、企画を作っておりまして、講師に白駒妃登美さんと言う方をお呼びしています。この方に日本の偉人についてたくさんお話をして頂けるでしょうし、そのような話も伺えるのかなと思っておりますので紹介をさせて頂きました。よろしくお願い致します。

教育総務課長

ありがとうございました。市長のお話にも出ておりました白駒さんの講演がございましたので、お時間ございましたら委員の皆様にもお願いしたいと思います。

それでは、本日は御殿場市における現状と課題について、熱心な意見交換をありがとうございました。

本日、皆様に頂きましたご意見につきましては今後の教育委員会の運営に反映させていくよう努めてまいります。また、内容によりましては、引き続きご意見を伺う場面があるかと思いますが、その際にはよろしくお願い致します。

5 その他

6 閉会

教育総務課長

続きまして、その他になりますが全体を通して何かございましたらよろしくお願い致します。よろしいでしょうか。

それでは、委員の皆様方、長時間に渡りありがとうございました。以上で、今年度の第1回総合教育会議を終了させていただきます。

次回の総合教育会議は、次年度の予算についてという事を主な議題としまして10月頃の開催を予定しております。詳細につきましては事務局と日程調整をした上で、皆様にご連絡を差し上げたいと思います。

もちろん、総合教育会議で協議すべき案件が発生した場合には、臨時に開催することもございますのでよろしくお願い致します。

それでは、本日はお忙しい中ありがとうございました。以上で終了となります。

午前11時27分閉会